

## お金が命（上）

某家のおばあちゃんが突然「お金がなくなつた」と大騒ぎをした。それが「嫁が盗つた」に変わるのに数日もかからない。痴呆状況初期によく見られる姑嫁問題だが、当のお家にとつては最悪のピンチである。

息子である夫も孫娘も懸命に事情を説明しても、ますます老母の心をかたくなにするだけ。追いつめられた彼女が最後に採つたのは刃物であつた。一家は恐怖に包まれ、ついに一室にかくまう。すると「死んじやるっ」自害の危機である。もはや病院で安全と安定を確保してもらうしかない。

息子さんには思い当たることがあつた。おばあさん名義にして利子課税を免れていたあの三百万円貯金だ。当然とはいえ、母に黙って引き出したのがいけなかつた。

すべてを失いゆく老い人にとって、最後に頼れるもの、それはお金。老いには性も金も関係ないとする者は、老いざる者の無知と高慢の極みだ。私たちの任運荘に老衰著しい元校長がおられた。毎月年金預金通帳を示す度にやっとうなずき、ほほえむの

だった。多額の年金証書には家族も強く執心で、その引き渡し要求はしつこく続けられるが、かすかながら本人の意思は首を横にふることで、ずつとノーだった。しびれをさらした息子は一方的に老親を他のホームへ移したが、二カ月もせず昇天される。老いは環境の激変には全く無防備、急変の一つに年金証書とりあげがあったとすれば、元も子もない、ただ痛ましい。―多くの老いにとって、いま持っているお金は命と一つ。

(一九九二年五月六日)